

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	すまいる				公表日	R8年 3月 10日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		・利用児の人数、体調の様子で2室に分かれ適切に対応している。 ・強行児童や障がいの特性に応じた環境調整をしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	2	・職員不足の日は、所長・事業所内の職員にサポートを依頼し、適切な職員数配置に努めている。	・求人中 ・同性介助や『力』が必要な場面が多く、男性支援者を求人しているが、応募がない。 ・社会的な人手不足が深刻な状況下で、同性介助ができない状況がある。職員の負担も重くなっている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		・個々の障がい特性に合わせた環境配慮を行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		・毎日消毒・清掃を行い清潔な空間を保っている ・活動エリアと遊びのエリアを分別している。 ・毎日の清掃、消毒を徹底している。(陶芸室の広い床等の清掃も徹底していく) ・毎日当番制にて感染症予防の観点から、環境、使用玩具等、徹底消毒するなど、衛生面に力を入れているほか、お子さんが清潔な空間にて過ごせるよう努力している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		・強度行動障がいの利用児は環境の配慮として別室で小集団で過ごしている。 ・静養室、陶芸室、パーテーション、テントなどを利用し個別で快適に過ごせる場所を保障できるようにしている。 ・上記1の通り。お子さんの状況によっては、クールダウン用に個室にて支援が出来る環境が整っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		・日々の振り返り、週1回のすまいる ・毎日の支援前後のミーティングと週一のミーティングにて全員参画している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・評価表の内容を真摯に受け止めている。 ・保護者からの意見に対し、返答と善処に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・週1回のすまいるミーティング、日々のミーティング、振り返り、日誌等、全職員が共通理解に努め、全職員での検討会議があり、製作している。 ・6の通り。支援前後と週一のミーティングの他、管理者や児発管と個別に意見を伺う場を設けている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7	・今後検討している。	・理事会、運営委員において審議をしている中、更に第三者委員会は負担が多いと感じる。 ・外部評価の導入については引き続き検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		・職員資質向上のための研修受講の場を法人が提供してくれる。 ・内部研修、外部研修ともに多くの機会があり、積極的に参加している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		・児発管、担当職員により、適切に作成され、保護者、全職員に公表されている。 ・お子さんの成長を育むバラエティに富んだ支援プログラムを作成し、HP、配布等して公表している。	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		・全職員、個々の子どもに対してのアセスメント会議に参加、子どもと児発管のニーズ等分析し、児発管、担当職員により作成できている。 ・検討会議、アセスメント、課題の整理表、モニタリング、支援計画案の上、支援計画を作成している。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		・隔週で「支援計画検討会議」を行い、職員全員の共通理解に努めている。 ・日々の振り返り、週1回のすまいるミーティング他、いつでも意見を言える環境を児発管が作ってくれている。 ・12にて全職員が声を出しあい作成された支援計画は共通理解の上、統一支援を行っている。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		・作成した支援計画は必ず全職員が回覧・押印をした上で把握している。 ・全職員共有の徹底により、支援に努めている。見やすい場所に設置してくれている。 ・13の通り。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		・インフォーマルなアセスメントをもとに、フォーマルに基づいたすまいる独自のアセスメントシートにて、アセスメントを行っている。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		・お子さんや御家族の状況や進路等に合わせた内容にしている。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		・週1回のすまいるミーティングにて、全職員で立案できる場を作ってくれている。 ・保育士を中心にミーティングにて立案。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		・お子さんの状態を把握し、必要な要素を取り入れる等して変化に富んでいる。	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		・プログラム活動内容やお子さんの状況に合わせて取り組み方を適宜適切な形態にて取り組んでいる。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		・「出発前ミーティング」と題し、必ずきめ細かく、漏れの無いように行っている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7			・毎日行っているが、かなりの時間を要する。記録も課題。 ・支援終了後の毎日の振り返りは不可欠であるので、記録の製作も含め、より短時間で効率的に行えるよう検討していく。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			・当番制で徹底して取り組み、支援に繋がっているが、労力や時間が掛かり、時間外勤務となってしまうことが多い。 ・記録、検証・改善は不可欠であるので、より短時間で効率的に行えるよう検討していく。
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		・基本的に6ヶ月毎、必要に応じて短期間でも行っている。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7		・「地域交流」が課題ではあるが、地域をマラソンで走ったり、交番への挨拶や公園などで地域のお子さんと遊ぶなどを行っている。	
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		・発語や意思表示が難しいお子さんに絵カードや、2択の選択などを促すなどしながら、自己決定の力を育てている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		・児発管と常勤の保育士の2名で担当している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		・常時連携を取れる体制である。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		・常に行っている。お子さんの状態を知る為に、学校側に要望し、必ず1日のご様子を伺ってから受け入れをしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		・努めている。お子さんの様子を知りたい場合、こちらから出向いて担当者にお話を伺い、支援を見させてもらい、統一支援に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		・移行支援会議にて支援内容・課題・注意点等の情報をお伝えする他、卒後もプランナーと連携を取っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7		・研修に参加させて頂いたり、訪問をして頂き、助言を受けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	1	・事業所への受け入れ交流は、難しいので、地域の公園などに出向いて、遊具の貸し借り等。	・夏祭りに地域の受け入れもしてみたい。 ・主体的な実施は難しいが、参加の呼び掛けがあれば検討したい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	1	・年10回程、南部地域の連絡会やグループワーク（子ども部会）に参加。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		・当事業所は帰りの送迎が出来ないので、毎回保護者の方にお迎えに来て頂くので、都度詳しくお子さんの状況をお伝え出来るのが強み。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		・保護者会に専門の講師をお招きし、研修を行ったり、保護者同士の情報交換にて先輩の保護者がアドバイスをして下さったり、参加された皆さんから好評を頂いている。その他講演会、研修会の周知をしている。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		・契約時にきめ細かく行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		・面談などを開催するなどしながら、必ず保護者の意思意向を組み取り、お子様が幸せに安心して成長していけるよう常に検討している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		・34の通りで、時間を作れやすく、同意の上サービス提供をしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		・34の通りで、機会が作りやすく、都度対応させていただいている。	・家族支援加算を取れない状況下がほとんど。 ・出来る限り家族等とのコミュニケーションを図り支援を行っている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7		・35の保護者会の他、すまいる夏祭りでは100人近い参加があり、保護者、兄弟の交流の場となった。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		・真摯に受け止め、対応をしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		・毎月の予約時に週プログラムを告知し、見通しを持って来所して頂く他、すまいるnewsの発行している他、HP掲載もあり。お子さんのご様子を、LINEにてお伝えしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		・機密情報漏洩防止に努め、個人情報、重要機密は鍵をかけて保管を行っている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		・iPadでのドロップス、視覚支援カードの他、ペクス、LINEを使用し配慮を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	2		・コロナ流行した年度より、コロナ一祭が出来ていない状況。すまいる独自に夏祭りの地域解放など検討したい。 ・今年度開催した夏祭りは100名近い参加をいただき交流の機会となった。今後も職員の負担も考慮しながら継続したい。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		・46と同じ。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		・契約時に確認と、年に1度調査を行い、確認をした上で支援している。 ・医療機関に受診して、状況が変わった場合、適宜連携と対応を取っている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	・48と同じ。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		・46と同じ。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		・継続して周知をして頂く。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		・些細な出来事も見逃さず、ヒヤリハットとして扱い、ヒヤリハット報告書を作成、全員で振り返りをし、再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		・権利擁護の研修は不可欠。重要な研修として全員で研修を受けたり、事業所内でも虐待防止について研修を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		・身体拘束について、どのような場面で、いつまで行うのかを組織的に決定し、支援計画に記載し、支援者間で保護者と共有している。	